

令和2年度事業報告

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで
特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

1 運営の概要

(1) コロナ禍の財政運営

令和2年度はコロナ禍で、これまでの活動の成果実績が、根底からその価値を消失させてしまうのではないかと懸念される一年だった。

法人の財政状況も、直営施設「風のスタジオ」、指定管理施設「もりおか町家物語館」「宮古市民文化会館」とも大きく利用料収入を減じさせ、職員の安定雇用にも影響を与えかねない事態に直面した。

この状況を「座して嵐が過ぎ去るのを待つか」、「リスク覚悟で逆境に立ち向かうか」という選択肢があるなかで、法人は、後者を選択し、積極的に各種助成金や国の委託事業に手を上げ、積極的な事業運営を心掛けた。

各種助成事業等の採択については、これまでの法人運営のノウハウや役員職員の人的ネットワークが活かされ、公募型事業は全て採択された。その結果、赤字決算や職員の解雇は免れ、令和元年度の税引き後の財産増加額2,759千円を上回る、3,229千円（前年比プラス17ポイント）という成果を上げた。とりわけ、文化庁のアートキャラバンは48,000千円ほどの事業費となり、うち4,000千円ほどを他事業や管理費に回すことが可能となり、赤字回避の大きな原動力となった。

(2) 指定管理施設の運営

指定管理施設は、「もりおか町家物語館」「宮古市民文化会館」ともコロナ禍による利用者減と、企画事業の中止・延期を余儀なくされた。その影響は、収支の悪化を招くことになるが、反面、光熱水費が予想以上にかからず、極端な収支の悪化を招かず、さらに宮古市民文化会館は文化庁の助成、もりおか町家物語館は盛岡市の収入減の補填もあって、急場をしのいだ。

但し、宮古市民文化会館は全ての学校鑑賞公演が実施できなかったことが痛手であった。

また、もりおか町家物語館は、大正蔵のショップを運営していたSAVE IWATEが、復興支援活動の再編と集約化により、内丸の市分庁舎に移転し、当法人が直営でショップ運営を行うこととなった。市の方針では、市所蔵美術品の常時展示と喫茶の大正蔵への移転が盛り込まれており、そのため、喫茶カウンターの一部改修、シンクや冷蔵庫等の備品購入が必要となり、その経費分が赤字とならざるを得なかった。

(3) 事業運営と風のスタジオ運営

本年度の創造型の企画制作事業は「岬のマヨイガ演劇公演」がコロナ禍にかかわらず、東京公演も含め予定していた全公演を実現できたことが大きい。

また、コロナ禍対策として実施した「アーツライブいわて」は、一部コロナ禍で公演が実施できないものもあったが、9割以上の事業を県内全域で展開し、7万人以上の観客・視聴者を獲得できた。「岬のマヨイガ」と「アーツライブいわて」の事業実績は、県内の文化芸術活動の歴史に残るものと評価されても過言でない。

但し、コロナ禍は、これまで法人が力を入れてきた東日本大震災からの「文化芸術によるコミュニティづくり」に影を落した。「コロナ禍で活動できない」という叫びは、「震災で文化芸術どころではない」という嘆きに近い。様々な対策を講じ、地道に活動が継続できる方策を検討する必要がある。

風のスタジオは、先駆的・実験的な舞台づくりを行う「旋風の劇場」「チャレンジシアター」ともコロナ禍で実施できなかったが、「一人芝居フェス」等市の助成金を活用した事業が、「密」を避ける活動として一定の成果をあげ、今後の方向性を示す道標となった。

2 課題

財務体質の強化につながる認定法人化（寄附税制の優遇措置を受けられる）を将来実現できるよう目指すため、正会員 20 名以上及び賛助会員 100 名以上の常態化を達成させるよう会員増強計画の検討や「サポーター」の増強に努めることとしたが、これも、コロナ禍で実現できなかった。

また、もりおか町家物語館は、数年続いている入館者の減少傾向が令和2年度も続き、コロナ禍でさらに半減となった。大正蔵のリニューアルを機に、これまでの事業展開や展示企画の見直しを含め、大胆な集客活動の見直しが必要となっているほか、地域行事のマンネリ化も否めず、盛岡市や盛岡まち並み塾、地域住民等との協議も必要である。

コロナ禍対策では、経産省の助成等を活用して、WEB 会議やオンライン配信の機器導入を行ったが、全施設に配置できる数ではない。また、在宅勤務に必須なパソコン等も個人所有に頼らざるを得ない状況であり、今後とも、各種助成制度の活用で「新しい日常」に対応できる業務基盤を整える必要がある。

持続可能な文化芸術活動を保持するため、多くの文化芸術関係者と連携し県内の文化芸術の振興に役割を果たすことが求められている。そのための情報共有と発信、活動の連携、課題協議を行うプラットフォームづくりが課題となっている。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業概要	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1 情報発信事業	1 HPの運営	岩手のアーツ情報の紹介。FBも併用(本部及び指定管理施設の相互リンク)法人のHPをリニューアルし、新たに風のスタジオのサイトを立ち上げた。	通年	全域	3名	閲覧 6,000回	503
	2 「風の通信」発行(毎月発行)	もりおか町家物語館通信と共同製作とする。主催事業紹介とコラム等。リレーエッセイも掲載。(HPにも同時掲載)	通年	全域	2名	会員及び利用者 約1,000名	19
2 人材育成事業	1 チャレンジシアター	若手及び新たな企画を提携公演(利用料35%引き)を予定していたが、コロナ禍により令和3年度に延期となった。	—	盛岡	1名	—	0
	2 次世代育成事業	○ゼロからはじめる中高生のための演劇クラス ONLINE開催。(宮古市民文化会館事業)	7月~8月 通年	宮古	2名	参加者のべ37名	—
		○みやこジュニアアンサンブルやみやこ子ども劇団デイジーの活動支援。 ※事業費は「3-4 宮古市民文化会館企画事業」に合算。		宮古	2名	参加者・観客 総数 420名	
3 サポーター研修	風のスタジオにて舞台技術講習会を2回実施した。	10月 1月	盛岡	1名	参加者のべ18名	0	

	4 文化振興プロジェクト事業	真如苑の助成で、音楽・美術・演劇・文学・映像の各分野を支援。旋風の劇場、宮古・二戸演劇交流、大漁踊り指導等多くの事業がコロナ禍により中止となった。いわてフィル定期演奏会、「岬のマヨイガ」公演等の支援。	通年	岩手県内	4名	参加者・観客 総数 2,193名	2,078
	5 みやこ市民劇ファクトリー事業	みやこ市民劇の継続（次回演目の検討等）とスキルアップを目指す自主公演をサポート。※事業費は「3-4宮古市民文化会館企画事業」に合算。	通年	宮古	1名	参加者・観客 総数 469名	—
	6 職員・会員研修	全職員を対象に「法人の基礎的な会計事務」および「制作業務の基礎知識」について研修を実施した。	4月	盛岡	2名	参加者 18名	0
3 企画制作事業	1 朗読劇	○高橋克彦百物語 「お化け屋敷の代替え事業として、もりおか町家物語館にて育成型の公演を実施。一般公募参加者がアナウンサーと稽古・公演を通して交流を図った。 ○「語り継ぐ盛岡物語」 「おかんの墓」「開運橋物語」に続く第3作品の公演は延期。 ○アナウンサー等による震災や戦争を題材にした朗読劇の公演は延期。（アナウンサー等は今年度の	6月～8月 — —	盛岡 盛岡 岩手県内	2名 — —	参加者・観客 総数 320名 — —	163

		「高橋克彦百物語」朗読劇 に出演)					
2	企画総務 部及び風の スタジオ企 画事業（朗 読劇を除く）	○風のスタジオ企画運営 「風スタ再開パフォーマンスフェス」「一人語りフェスティバル」「街なかアーツライブ～INDEPRNDENTin盛岡」を実施。 ○旋風の劇場 vol.3 は次年度に公演延期。	7月8 月 12月 —	盛岡	2名	公演総観客 数 283名 —	—
3	もりおか 町家物語館 企画事業	○MACHIYART2020 盛岡 彫刻シンポジウム、鉦屋町 界限思い出写真展ほか展 示企画実施。 鉦屋町の手仕事展は中止 ○したまち小劇場祭公募 公演、浜藤 JAZZ ライブ(ジャズとワインの夕べ)な ど実施。 ○黒森神楽公演・お化け屋 敷（6回目）は中止 ※事業費は「5-2 指定管 理事業 もりおか町家物 語館」に合算。	9月 ～12月 3月 —	盛岡	4名	展示観客数 8,400名 観客数 114名 —	—
4	みやこ市 民文化会館 企画事業（学 校及び一般 鑑賞事業等 を除く）	○岬のマヨイガ（再掲）プ ロデュース事業の実施 ○みやこアップデート事 業（ダンス借景、三陸劇場 列車、介護と演劇ワークシ ョップ）➡中止 ○18歳以下のワークショ ップ事業（オンラインに変更）	2月 通年 7～8月 通年	岩手 東京 宮古 宮古	4名 2名	 参加者 のべ37名	—

		新規事業「プラスオンライン」事業、「岬のマヨイガ」公演実施 ○共催公演事業4本⇒中止 みやこ復興寄席等実施 ○その他芸術文化事業 市民文化祭⇒中止 宮古郷土芸能祭、市民芸能祭り、岩手芸術祭巡回美術展の3事業は実施				観客数 346名 観客数 530名 入場者数 1,981名	
5 施設 管理 運営 事業	1 風のスタジオ、風のアトリエの管理運営	4月～5月(33日間)休館 風のスタジオ 利用日数102日 (前年216日) 風のアトリエ 利用日数90日 (前年122日) リハーサル室 利用日数67日 (前年210日) 利用料金1,268,592円 (前年3,073,137円)	通年	盛岡	2名	利用者数 1,805名	3,852
	2 指定管理事業「もりおか町家物語館」	浜藤ホール利用日数 47日(前年183日) 利用料金162,120円 (前年622,340円) 企画事業各種(詳細は「もりおか町家物語館事業」を参照)	通年	盛岡	7名	来館者数 30,508名	39,711 (846)
	3 指定管理事業「宮古市民文化会館」	大ホール利用日数 68日(前年141日) 利用料金4,180,000円 (前年7,352,440円) 企画事業各種(詳細は「宮	通年	宮古		利用者数 15,117名	96,801 (19,712)

		古市民文化会館事業」を参照)					
	4 その他の施設の指定管理者応募	特になし	通年	県内全域	—	—	—
6 社会教育・教育普及交流・復興支援事業	1 子ども演劇、ジュニアオーケストラの育成・支援	○子ども劇団みやこデイジー公演及び活動サポート。(宮古市民文化会館事業)	通年	宮古県内	1名	参加者10名 観客数 223名	—
		○「みやこジュニアアンサンブル」活動継続を支援(宮古市民文化会館事業)	通年		1名	参加者10名	
		○ジュニアオーケストラ選抜メンバー参加、いわてフィル定期演奏会(いわて文化振興プロジェクト) ※事業費はそれぞれ「宮古市民文化会館企画事業」「文化振興プロジェクト」に合算。	2月		1名	ジュニア選抜参加者4名 観客数320名	
2 学校及び地域への講師派遣ほか	コロナ禍により派遣事業は実施できなかった。	—	—	—	—	—	—
3 いわて文化支援ネットワーク事業(岩手県NPO等による復興支援事業助成「文化芸術によるコミュニティ形成事業」)	各種講座や市民劇支援のワークショップ、震災文学の公募、市民劇・朗読劇等の動画公開、3,11文化復興フォーラムなどを行うほか、文化支援の中間コーディネート、啓発事業、人材育成事業などを実施。	通年	県内	4名	参加者・観客 224名 動画視聴数 7,583回 発行冊子 900部	4,657	

4	文化芸術 コーディネー ト事業	県からの委託事業（盛岡広 域圏、沿岸広域圏）県民の 文化芸術活動支援のアド バイスやコーディネート、 各地域にてネットワーク 会議などを実施。	通年	盛岡 沿岸	3名	約183件	70
5	風の公民 館事業	「風の公民館事業」 ○風のアトリエ等 「名作戯曲を読もう」講座 開催。 「舞台スタッフ技術講座」 →中止 ○もりおか町家物語館 「弦楽器の学校」「オラホ の盛岡弁塾」「お茶の学校」 開催。「盛岡芸妓お座敷体 験講座」は会場を料亭に変 更し2回開催。 「お酒の学校ワイン編」・ 「短歌カフェ」 →中止	6月～7 月 — 9月 ～1月	盛岡	1名 — 2名	受講者 のべ14名 — 参加者 のべ142名	0 —
6	地域づく り事業	○もりおか町家物語館地 域連携事業（旧暦のひな祭 り、てどらんど、お盆の黒 川さんさ）、町家 de ビアパ ーティは中止。 ○浜藤古本市・鉾屋町界限 おもいで写真展（展示と再 掲）実施。	— 10月・ 1～3 月	盛岡	— 2名	— 3,899名	— 52
7	役員・会 員等の文化芸 術活動のサポ	役員・会員等の指導者や出 演者・スタッフとしての派 遣要請にかかるサポート	—	—	—	—	—

	一ト等	等。今年度は活動なし。					
7 社 会 教 育 ・ 教 育 普 及 交 流 ・ 復 興 支 援 事 業 そ の 他	1 施設喫茶店の運営、ミュージアムグッズ等の製作販売	もりおか町家物語館内喫茶店「DOMA」およびプレイガイドの運営。 ミュージアムグッズの販売 収入実績額 1,149,980 円 (主に販売手数料収入) DOMAでは「お茶の学校」等の企画事業を実施。	通年	盛岡	4名	利用者数 1,718名 お茶の学校 参加者 11名	3,420 16
	2 文化芸術推進計画の策定支援と提言	理事長が中心となり県及び市町村の文化施策に対するサポート及び提言等を行った。	通年	県内	1名	岩手県及び盛岡市等	0
	各種共催事業の推進	(共催)三陸国際芸術祭共催および実行委員会参加 (運営協力)岩手芸術祭映像フェスティバル	通年	県内 宮古 盛岡	2名		0
			11月		2名		0
3 法人運営事業	○会計処理手順の改善と企画総務部の強化(職員を増員した)。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止対策にかかる計画の策定。(令和元年からの継続)	通年	県内	3名		0	

(2) その他の事業(収益事業)

特になし。